

議 事 要 旨

名 称	令和 6 年度 第 1 回 まつやま人口減少対策推進会議総会
開催日時	令和 6 年 5 月 24 日(金) 10:00～11:30
開催場所	松山市役所 別館6階 第3・第4委員会室
出席者	別添出席者名簿のとおり
議事内容	1. 松山市への提言 ● 運営幹事会から提言案の説明 (主な意見) ・若者の人口減少について、特に若い女性が地域に住みたい、働きたいと思ってもらえるかが重要な問題であり、松山市で住みたいと思ってもらえるような仕事、地域の環境づくりについて、データ等を示しながら市に伝えていただきたい。 ● 松山市へ提言 2. 報告 (1)専門部会の活動について ● 各専門部会長より説明 (2)監事監査の結果について ● 事務局より説明 3. 第 2 期松山市まち・ひと・しごと創生総合戦略の振り返り及び次期総合戦略について ● 事務局より説明 4. 意見交換 ● 出席者による意見交換 (主な意見) ・人口減少は時間との戦いであり、なおかつ答えが見えないものなので、一番厳しいのは時間を失うこと。様々な問題に関わってくるため、総花的な形になりがちだがプライオリティを絞ったほうがいいのではないか。 ・将来の人口予測が出来ている中で、バックカスティングで精度の高いプランを立て、やるべきことをどれだけ取り組んでいけるかが重要だと思う。 ・松山市は県内市町からの流入で人が集められている状況であるが、それ以上に 20 代の転出超過数が多いことが重要課題であり、松山市以外の市町の人口減少が進むと流入人口も減少していくため、愛媛県内のダム機能として責任を果たすという明確な方針を持たないといけない。 ・高校生の意識調査では、約4割が1回県外に出て戻ってきたいと考えており、1回県外に出て戻ってきたいと思わせるまちとしての魅力、働く場所が大事。 ・東京に転出した理由を大学生に尋ねると、多少、物価が高くても、娯楽や交通の利便性も良くいところ魅力を感じており、働くこと、子育てすることだけではなく、若い人の娯楽についても考えていく必要がある。 ・最近の大学生は、就職しても数年程度で転職する人が多く、最初の就職先に対するイメージで松山市では自分の人生を描けないと判断しているのではないかと。具体的な生活がイメージできるほど居住意向が強くなるため、若い時から愛媛での生活をイメージ出来るようにすることが大事。

	・大きな奨学金の返済を抱えたまま就職すれば、結婚への希望も持ちにくく、結婚資金を貯めるとなると晩婚化の要因にもなる。奨学金の返済は、できる限り負担を少なくすることが、長い目で見ると人口減少の抑制につながるのではないか。 ・ジェンダーイコーリティーは人口減少に関わらず大切な話だが、それによって人口リスクが減るかという点必ずしもそうではない可能性があり、女性がやりたいような職種、会社が少ないという問題もあるのでは。もう少し掘り下げて、女性が松山から流出している原因を調べる必要がある。 ・1つの企業だけでなく、行政、家庭、地域社会が地域ぐるみでダイバーシティなエリアにすることで、生きがいのある、働き甲斐のある、住みやすい地域となる。まちづくりが強く連動する必要があるため、優先順位をつけて、しっかりと取り組んでいただきたい。 ・第2子の出産に関しては、経済的な要因に加え、配偶者の協力が重要というデータがあるが、男性の育児休暇について調査したところ、取得したいができないという人が 30 代で 43.5%もいて、産業界のリーダーの方の意識を変えていくことが大事。 ・例えば、松山への UI ターンを考える際に、正規で働ける、賃金も男女平等でもらえる、働きやすい職場というのがあれば、移住を検討しやすくなると思う。 ・働く人にとっては、職場だけではなく働いた後の生活の場も重要で、まちづくりの中でも仕事や生活を集約する中心市街地の活性化が重要だが、松山に関しては中心市街地の再開発が特に進んでいないため、早急に進めないといけないのでは。 ・若者だけでなく、シニアの方々に知識や経験を持って帰ってもらえると、地元企業の成長や発展にもなると思う。
--	---